

マンホールブームに関する年表

吉田清彦作成 2018年12月(2022年10月改訂)

	マンホールをめぐる動き	社会の動き&情報通信環境	吉田清彦 HP「ミニ写真集:マンホールの蓋」
1977年(昭52)	那覇市でデザインマンホール誕生。1980年代に全国に広まる		
1984年(昭59)	林丈二(1947年生まれ)写真集『マンホールのふた(日本編)』(サイエンティスト社)発行		
1986年(昭61) 第一次ブーム	松田哲夫(筑摩書房編集者)、赤瀬川原平(画家)、南伸坊(イラストレーター)、藤森照信(建築家)、荒俣宏(博物学者)、杉浦日向子(漫画家)、林丈二(マンホール観察)らが路上観察学会を設立		
1989年(平成元年)	水道産業新聞社編、建設省下水道部監修『路上の紋章 マンホール蓋デザイン 200選』(水道産業新聞社)発行		
2000年(平12)		Googleが日本語による検索サービスを開始。日本におけるインターネットの人口普及率が37%に	
2006年(平18)		雇用機会均等法施行から20年。アラフォー女子がさまざまな分野で活躍しはじめる。インターネットの人口普及率が73%に	
2007年(平19)	(3月)平成の大合併で市町村数が95年の3,234から07年3月には1,812に (7月)国土交通省及び独立行政法人水資源機構が管理する111のダムでダムカードの配布が始まる	団塊の世代が60歳になり始め、定年退職する人が大量に増えていく	
2008年(平20)		Facebook、Twitterがサービスを開始	
2009年(平21) 第二次ブーム	(6月)「日本マンホール蓋学会」がホームページ開設		
2010年(平22)			(7月)新潟県三条市で初マンホールの写真を撮る(10月)HPに「ミニ写真集:マンホールの蓋」のページを設ける
2012年(平24)	国土交通省下水道部や公益社団法人日本下水道協会などが「下水道広報プラットホーム(GKP)」を結成する		(6月)掲載自治体数が150になる (12月)200を超える
2014年(平26)	(2月)日之出水道機器株式会社 マンホールふた総合サイト「Hirake! Manhole(ひらけ!マンホール)」開設 Twitterなどの投稿サイトが増えていく		(6月)掲載自治体数が320に
2015年(平27) 第三次ブーム	(3月)下水道広報プラットホームが東京・秋葉原で第1回「マンホールサミット2015」を開催(参加者300人)。いろいろな話題が提供され、以降、マスコミで取り上げられることが多くなる。その後、毎年関東と関西で開催されるようになる (11月)「マンホールサミット2015in 関西」が神戸市で開かれ、300人が参加		(2月)掲載自治体数が400を超える (12月)510に
2016年(平28)	(3月)「マンホールサミット2016」が東京・秋葉原で開催され、300人が参加 (4月)下水道広報プラットホームの企画監修でマンホールカード第1弾28自治体30種を発行。ネットオークションで一部のカードが高値をつけ、カードマニアを巻き込んでブームが一気に拡大する (11月)「マンホールサミット2016in 奈良」が大和郡山市で開催される	スマートフォンの保有率が急速に増えていく(2011年14.6%→16年56.8%)	
2017年(平29)	(1月)「マンホールサミット2017in 埼玉」が川越市で開催され、過去最多の3,000人が参加 (11月)「マンホールサミット2017in 倉敷」が開催され、過去最多の3,500人が参加		(2月)掲載自治体数が600に (12月)712に
2018年(平30)	(12月)マンホールカード第9弾導入。シリーズ累計で407自治体478種に		(12月)763に